

生活習慣とがん

-見直すなら「今でしょ!!」生活悪習慣-

日時 平成26年3月9日(日) 13:30~16:10

場所 倉吉交流プラザ 2階視聴覚ホール

13:30 開会
あいさつ 鳥取県立厚生病院 院長 井藤久雄

13:35 講演
座長:秋藤洋一(鳥取県立厚生病院 医療局長)

1 食道がんのお話
演者:林 暁洋(鳥取県立厚生病院 消化器内科副医長)

2 肝臓がんのお話
演者:永原天和(鳥取県立厚生病院 消化器内科医長)
(休憩)

3 大腸がんのお話
演者:野口直哉(鳥取県立厚生病院 消化器内科部長)
(質疑応答)

16:10 閉会

主催 鳥取県立厚生病院

後援 (公社)鳥取県医師会 (公社)鳥取県中部医師会 (一社)鳥取県診療放射線技師会
(一社)鳥取県臨床検査技師会 鳥取県細胞検査士会 (一社)鳥取県薬剤師会
(公社)鳥取県看護協会 倉吉市 三朝町 湯梨浜町 琴浦町 北栄町
(公財)鳥取県保健事業団 (株)新日本海新聞社

1 食道がんのお話

林 暁洋（鳥取県立厚生病院 消化器内科副医長）

【略 歴】

2005年 川崎医科大学医学部卒業、鳥取大学医学部附属病院研修医
2007年 山陰労災病院消化器内科勤務
2008年 島根県済生会江津総合病院消化器内科勤務
2009年 鳥取大学医学部附属病院第二内科医員
2013年 厚生病院消化器内科副医長 現在に至る

【専門分野等】

日本内科学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

【講演内容】

食道癌は、食道にできる悪性腫瘍で、60～70歳代の男性に多くみられます。死亡数は年に約11000人で、罹患率は男性でゆるやかに増加傾向です。食道癌には、扁平上皮癌と腺癌がありますが、わが国では90%以上が扁平上皮癌です。

危険因子は飲酒と喫煙で、1日2合以上の飲酒、30本以上の喫煙で食道癌の発癌リスクが上がります。飲酒については、アルコールの代謝産物であるアセトアルデヒドを分解するアセトアルデヒド脱水素酵素2 (ALDH2)を欠損している人は、発癌リスクが高いとされています。また、栄養状態の低下や果物や野菜の摂取不足によるビタミン欠乏、熱い飲食物も危険因子とされています。

食道癌の予防については、禁酒と禁煙、野菜と果物の摂取が必要とされています。

早期の段階で診断されれば、侵襲が低く、根治率が高い内視鏡治療が可能であり、症状がない段階で内視鏡検査を定期的に受けることが大切です。飲酒や喫煙の嗜好のある高齢男性など食道癌リスクの高い人に絞って、食道を詳細に観察する内視鏡検査を受けることで、食道癌を早期に発見することが推奨されています。

2 肝臓がんのお話

永原天和（鳥取県立厚生病院 消化器内科医長）

【略 歴】

- 2002年 鳥取大学医学部医学科卒業
鳥取大学医学部附属病院医員（研修医）（第二内科）
- 2003年 町立広瀬病院内科医師（研修医）
- 2004年 公立豊岡病院医師（消化器内科専攻医）
- 2005年 鳥取大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程入学
鳥取大学医学部附属病院非常勤医員（第二内科）
- 2009年 鳥取大学大学院医学系研究科医学専攻博士課程修了 博士（医学）（鳥取大学）
- 2010年 鳥取県立厚生病院消化器内科医長 現在に至る

【専門分野等】

日本内科学会認定医、日本消化器学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

【講演内容】

鳥取県は肝がん死亡率が全国平均よりも明らかに高く、県や医師会、肝疾患診療拠点病院が主体となって対策に取り組んでいるところです。

肝がんの原因として最も多いのがB型肝炎やC型肝炎といった肝炎ウイルスによるものです。まずはご自分やご家族が肝炎ウイルスに感染していないかの検査を受けましょう。

現在は、これらウイルスに対する治療が格段に進歩していますので、肝炎ウイルス陽性と判明した方は、必ず医療機関を受診していただき、治療について主治医とよくご相談ください。こうした、検診受検→医療機関受診→受療というサイクルが途切れることなくまわっていくことが肝炎・肝がん撲滅に向けて最も重要なことです。既に肝炎陽性と知りながら受診できていない方も是非受診をしていただき治療について一緒に考えていきましょう。

本日は、近年増えてきている肝炎ウイルス以外の原因による肝がんのお話です。多量のアルコール摂取が肝臓に悪いことはご存じの方が多いと思います。是非この機会に飲酒習慣を見直してみましょ。一方、メタボリックシンドロームと肝がんの関係はあまり知られていません。糖尿病や脂肪肝が肝がんの危険因子になることがわかってきました。検診でメタボの項目や肝機能がひっかかった方、すでに糖尿病や脂肪肝の診断を受けておられる方、一度ご自分の肝臓の状態をよく調べてみましょう。

今日の講演が皆様の健康維持、健康増進の一助となり、ひいては鳥取県のがん死亡、とくに肝がん死亡率の改善につながっていくことを願っております。よろしく願いいたします

3 大腸がんのお話

野口直哉（鳥取県立厚生病院 消化器内科部長）

【略 歴】

- 1995年 弘前大学医学部卒業、鳥取大学第二内科研修医
- 2000年 国立浜田病院消化器内科勤務
- 2001年 厚生病院内科勤務
- 2010年 厚生病院消化器内科部長 現在に至る

【専門分野等】

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会専門医

【講演内容】

大腸がんも、喫煙や飲酒、肥満、糖尿病などさまざまな生活習慣との因果関係がわかってきています。

また、加工された肉製品などについても因果関係を示唆されています。

きょうは、大腸がんを予防するために生活習慣で気を付けたいことにつきまして、みなさんと考えてみたいと思います。